

Gary E. Maciel 教授のご逝去のお知らせ

Gary E. Maciel 教授は2014年4月4日にご逝去されました。(享年79歳)

Gary E. Maciel 教授は、1960年にMITで有機化学の学位を取得し、その後、J.S.Waughのもとで博士研究員を経て、カルフォルニア大学デービス校で助手、助教授、教授を1971年まで歴任されました。1971年よりコロラド州立大学で教授を務められ、2011年に退職されておりました。

Maciel 教授はNMRの理論と実験の両面から研究をされてきました。特に触媒、高分子、半導体、超伝導物質など、有機材料から無機材料までの幅広い物質の物性を固体NMRの手法を用いて研究をされ、多大な功績を上げられています。NMR装置や測定技術の発展に関しても大きな貢献をされています。1982年に発表された固体¹³C 2D exchange NMRのパルス系列はその後、PDSD NMRとして発展しています。また、Chemagneticsという固体NMR装置を製造した会社を立ち上げたのはMaciel教授の研究室で学んだ研究者達でした。

Maciel 教授は退職後も定期的に研究室のセミナーに参加して新しいアイデアを出しておられたと聞いています。死去されたときも自転車で研究室に向かう途中であったとのこと。誠に残念でなりません。先生の多大な業績と貢献をたたえて深く追悼の意を表します。

2014年4月10日
日本核磁気共鳴学会理事会